

御油小「校長室より」3学期学校の風景5



【6年生 松並木学習 2月13日】

卒業を控えた6年生が、間近に迫った「松の植樹活動」を前に、松並木について理解を深める事前学習を行いました。講師にお迎えしたのは、本校の活動をいつも温かく見守ってくださっている松並木保存会会長の天野さんです。

天野さんのお話は、子どもたちの興味を惹きつける工夫が随所に散りばめられており、準備して下さったスライド資料も大変分かりやすく、どの子も身を乗り出すようにして聞き入っていました。単に知識を得るだけでなく、なぜ今、自分たちが松を植えるのか、その一本にどのような歴史と願いが込められているのかを、心で感じ取ることができたようです。お話を聞く前と後では、子どもたちの表情がガラリと変わったように感じます。「自分たちの手で、この美しい景観を未来へつないでいくんだ」という誇りと責任感が芽生え、植樹本番に向けてやる気が一段と高まりました。



【2年生 ダスキン出前授業 2月16日】

2年生が、お掃除のプロであるダスキンさんをお招きし、お掃除についての出前授業を行いました。今回の授業で教わったお掃除の大切なキーワードは、「快適・長持ち・健康」の3つです。自分たちが気持ちよく過ごすため、道具や校舎を大切に長く使うため、そして何よりみんなが元気でいられるために、お掃除がいかに大きな役割を果たしているかを分かりやすくお話しいただきました。後半の実習では、ほうきの正しい動かし方や、力強く雑巾を絞るコツを伝授していただきました。小さな手で一生懸命に雑巾を絞り、身の回りをピカピカにしようと張り切る子どもたちの姿は、とても微笑ましく、また頼もしく見えました。

世界的に見ると、子どもたちが自分たちで学び舎を掃除する習慣がある日本は、非常にめずらしく、そして素晴らしい精神をもった国だと言われています。ただ汚れを落とすだけでなく、自ら環境を整えることで感謝の心や公共心が育まれます。そんな日本ならではの良き文化を、これからも日々の学校生活の中で大切に引き継いでいきたいと改めて感じました。お掃除を通して、子どもたちの心もさらに美しく磨かれていくのが楽しみです。



【6年生 マツナミキ 松の植樹活動 2月18日】

卒業を間近に控えた6年生が、伝統の「松並木植樹」を行いました。この活動は御油の松並木を守るため、教育委員会生涯学習課や松並木愛護会の皆様のご協力のもと、平成21年から「卒業プロジェクト」の一環として毎年大切に続けられているものです。今年植え付けたマツの苗木には、実は素敵な物語があります。これらの苗は、今の高校生くらいの先輩たちが5年生の時に種をまき、愛護会の皆様が今日まで大切に育ててくださった1メートルほどの苗木なのです。自分たちが昨年まいた種も、こうして数年後の後輩たちへと受け継がれていくのです。そんな時を超えたつながりを感じられるのも、この活動の素晴らしさだと感じています。



愛護会の皆様に教わりながら苗を無事に植え終えると、一本一本にナンバープレートが取り付けられました。その瞬間、この小さな苗木は正式に国の天然記念物の一部となります。自分たちの手で国の宝物を植え、守っていくという特別な経験ができる御油っ子は、本当に幸せものです。今はまだ小さな苗木ですが、子どもたちが大人になったとき、大きく成長した松を見上げて「御油の町で育ててよかった」と故郷を誇らしく思ってくれたら、これほど嬉しいことはありません。子どもたちのために温かいお力添えをいただいた松並木愛護会の皆様、本当にありがとうございました。

